

自由民主党長崎県連 様  
県議会議員 宮内雪夫 様

2014年1月24日  
日本共産党長崎県委員会  
委員長 山下満昭

## 宮内県議の発言についての謝罪を求め、強く抗議する

長崎新聞の報道によると、自民党の宮内雪夫県議は23日夜の佐世保市での個人演説会で、「共産党に対して一撃、二撃、三撃、もうこれ以上立ち上がることが出来ないような、ドカーンと原爆や水爆をたたきつけるような力で選挙で決定していただきたい」と、述べている。

「長崎を最後の被爆地に」というのは、全ての長崎県民の願いであり、県としても「核兵器の廃絶」を強く求め続けている。その被爆県の県議が、原爆とその使用を容認・推奨するかのごとき発言であり、原爆犠牲者とそのご遺族、また被爆者のみなさんへ許しがたい暴言である。

今なお後遺症に苦しんでいる被爆者からは、「原爆の非人間性をどう認識しているのか。人間として許せない」という、怒りの声が寄せられている。

また、選挙は有権者の前に互いの政策を堂々提示し、判断してもらうものであり、相手候補を「たたきつぶす」のが目的ではない。長崎県では選挙中、銃撃により長崎市長が死亡するという悲劇も記憶に新しいところである。

今回の発言は、共産党の候補や日本共産党という政党の存在そのものを、「手段を選ばず抹殺してもかまわない」というに等しいことであり、選挙や民主主義の根幹を否定するものであり、わが党への冒瀆でもある。

今回の発言に対して、本人は「失言、申し訳ない」と釈明したと報道されているが、その程度のことで済む問題ではない。県議としての資質にも関わる問題である。

わが党は、以上の点を踏まえ、宮内県議と所属する自民党県連に強く抗議し発言の撤回をもとめる。さらに、被爆者を含む全ての県民と日本共産党に対して、謝罪を要求する。

以上